

下品野 市長と地域との懇談会

日 時：令和 6 年 10 月 5 日（土）
午後 7 時から午後 8 時まで

場 所：下品野地域交流センター

参加者：13 名

（他 オブザーバー：伊藤自治連合会長）

【内 容】

市からの報告 テーマ：ごみの減量について

- ・プラスチック・剪定枝・ミックスペーパーなどの分別が着実に進み、燃えるゴミが減少し、晴丘センターの負荷が減少した。
- ・剪定枝の分別が進み、市民の皆さんにとって出しやすい方法や時期等についても再検討する予定。
- ・燃えるごみの量が減ったが、ごみ全体の総量では前年から 3 % 程の減少と大きく減っていないため、家庭から出るごみの量の削減に取り組んでいきたい。
- ・家庭から出るごみの中で一番多い調理くず、食べ残し、手付かずにそのまま捨ててしまう食料品などのフードロスの削減に取り組み、ごみの総量の削減に協力いただきたい。

市からの報告 テーマ：市制 100 周年に向けて

- ・今年度は市制 95 周年であり、改めて瀬戸の歴史と伝統の偉大さを感じたところ。
- ・今年度は来年開催される国際芸術祭あいちのプレイベントも開催される。
- ・来年は、国際芸術祭あいちや愛知万博 20 周年記念事業が開催され、さらなる賑わいが期待される。市としても県と連携して取り組んでいく。
- ・瀬戸市制 100 周年を迎えるに当たり、カウントダウンにつながる取組みを進めていく。

地域の課題：ごみの減量について

- ・リサイクルセンターが市内に 1 か所しかなく使いづらいため、増設してほしい。
- ・プラごみの回収について、市内 6 か所に仮設のリサイクルステーションが設置されるが、これが定着しないように。住民の希望としては、可燃ごみと同様に近所の集積所に出して、週一で回収してもらうことである。
- ・プラごみの回収が始まってから約 2 年が経過している。その時から週一回回収の要望が出ているため、迅速に対応してほしい。

- 大型店舗などで回収ボックスが設置されているところがあるが、わざわざごみを持っていくのではなく、買い物ついでに捨てられるので良い。市役所や小中学校などにも回収ボックスを設置して、出かけるついでに捨てられるとよい。また、その結果は公表してほしい。
- 資源ごみに関しては、売れるものと売れないものがあり、プラごみは売れないものとのことだが、民間事業者の駐車場にリサイクルステーションが置かれているのをよく見かける。そこで売れるものが回収されてしまい、市に収益が回らなくなっているのではないか。
- 可燃ごみの集積所が非常に近接しているところがあるため、より適正に配置してほしい。
- ごみ袋に企業の広告を載せると収益につながるのではないか。

地域の課題：その他

（避難所の備蓄品について）

- 大地震の発生などで長期間避難所で生活せざるを得なくなった場合、現在の備蓄品（特にプライバシーを守るパーテーションなど）は全く足りない。
- 能登半島地震でも言われていたが、女性用品やおむつが足りないので、対応してほしい。

（その他）

- 他市から瀬戸市内に入ると道路沿いに生えている草が目立つ。市のイメージアップのためにも、きれいにしたほうが良い。また、道路に草がはみ出していると、それを避けるために車が対向車線にはみ出してくるので、すれ違いの際や歩行者がいると非常に危険な状態である。
- 公園も草が伸び放題のところがあるので、対応してほしい。
- 道路の側溝にふたがなく、すれ違いが危険な道がある。
- 自転車で移動する子どもが多いが、ヘルメットを被っていない。小学4年生を対象とした交通安全の研修があるようだが、それだけでは広まっていかないので、中学生や高校生向けにもそういった研修があるとよい。
- ボランティアのなり手が不足しており、市からいろいろな依頼が来るが、人手が足りない。市でできることは市でやってほしいし、市も人手集めを手伝ってほしい。